

「創造的過疎から考える地方の創生」

【1】創造的過疎とは？

過疎化を与件として受け入れ、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで人口構造・人口構成を変化させたり、多様な働き方や職種の展開を図ることで働く場としての価値を高め、農林業だけに頼らない、バランスのとれた持続可能な地域をつくろうという考え方。

【2】過疎地における仕事・雇用の問題と神山プロジェクト

[課題] **過疎地には雇用がない！仕事がない！**

- 若者が古里へ帰って来られない。
- 移住者を呼び込めない。
- 地域を担う後継人材がいない。

[神山プロジェクト]

- ① **サテライトオフィス** (ITベンチャー、映像、デザイン会社など場所を選ばない企業の誘致)
 - ◎ 11社がサテライトオフィス設置、本社移転、新会社設立(2014年8月現在)
 - ◎ 合計30名新規雇用。3年後までに新たに30程度の雇用を創出する見込み
 - ◎ エンジニアやプログラマーだけでなく、営業(オンライン)も展開
- ② **ワークインレジデンス** (仕事を持ち、将来町に必要なと考えられる働き手や起業移住者の誘致)
 - ◎ ビストロ、カフェ、パン屋、ピザ屋、靴屋、ゲストハウス…などが続々と開業
 - ◎ 商店街の空き店舗への展開によって、今までに類を見ないような商店街の出現
- ③ **神山塾** (厚生労働省の基金訓練・求職者支援訓練による後継人材の育成)
 - ◎ 訓練生の属性：独身女性、20代後半～30代前半、東京周辺の出身、クリエイター系が多数
 - ◎ 2010年12月開始、6期77名修了。移住(約50%)・SO就職(10名)・婚活(カップル9組誕生)

【3】神山プロジェクトから見えてきたもの

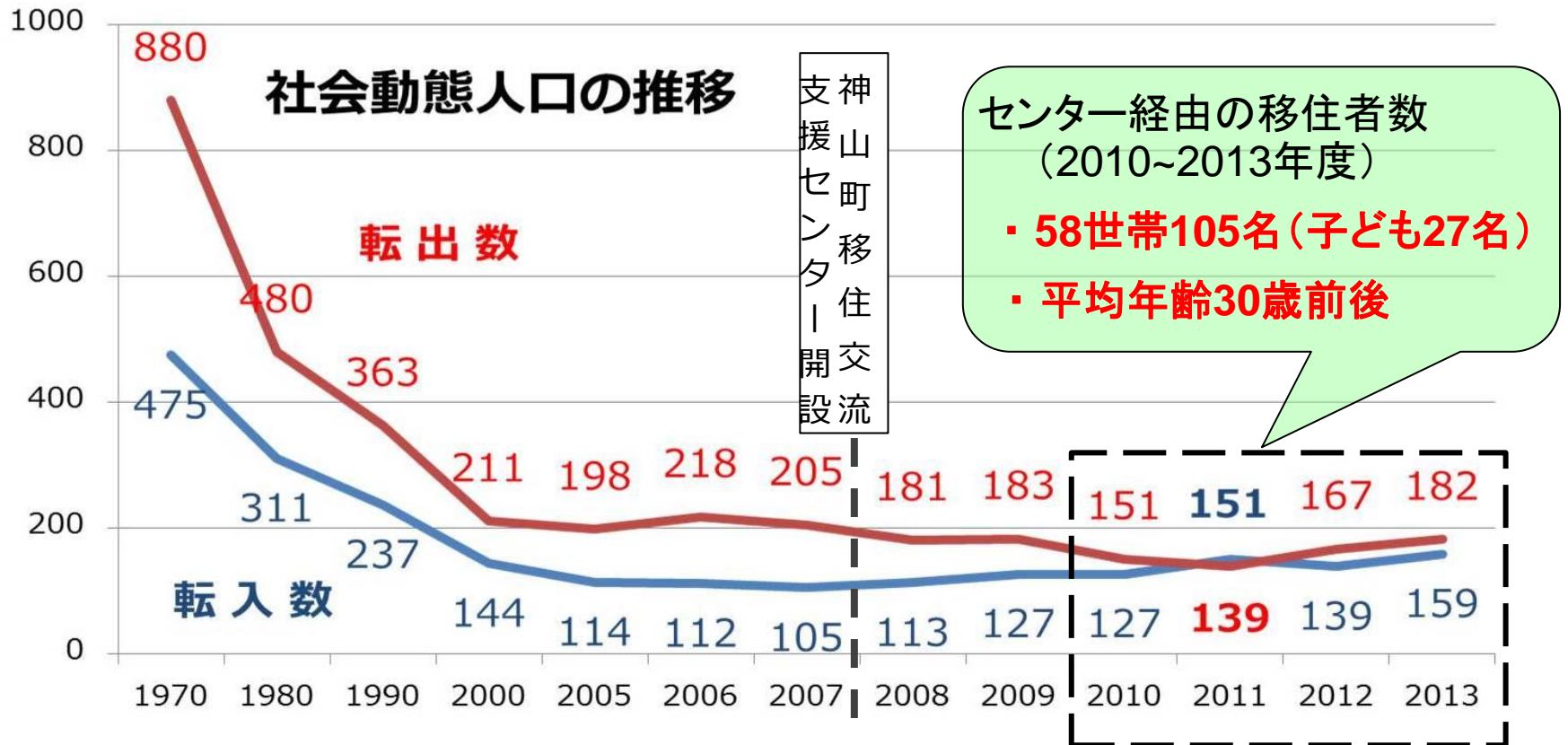
- ① 地方創生のポイントは「地域に何があるかではなく、**そこにどんな人が集まるか!**」
- ② **サテライトオフィスの立地・集積**がビストロなどの**サービス産業**を育み、**農業(本丸)**に波及中
- ③ 食糧生産の場という固定的な見方から、自然豊かな**仕事(ビジネス)の場**への意識転換
- ④ 地方創生における「アベノミクス」の四本目の矢は、「**ヒトノミクス**」

【4】私の提案

- ① **起業支援の強化・充実** (雇用の場が少ない過疎地では求職者支援よりも、若者の小さなビジネスづくりへの支援)
- ② **地方起業訓練塾の開設** (地方と若者を繋ぎ、起業希望者に対する人材教育の実施や起業後の人的支援の提供)

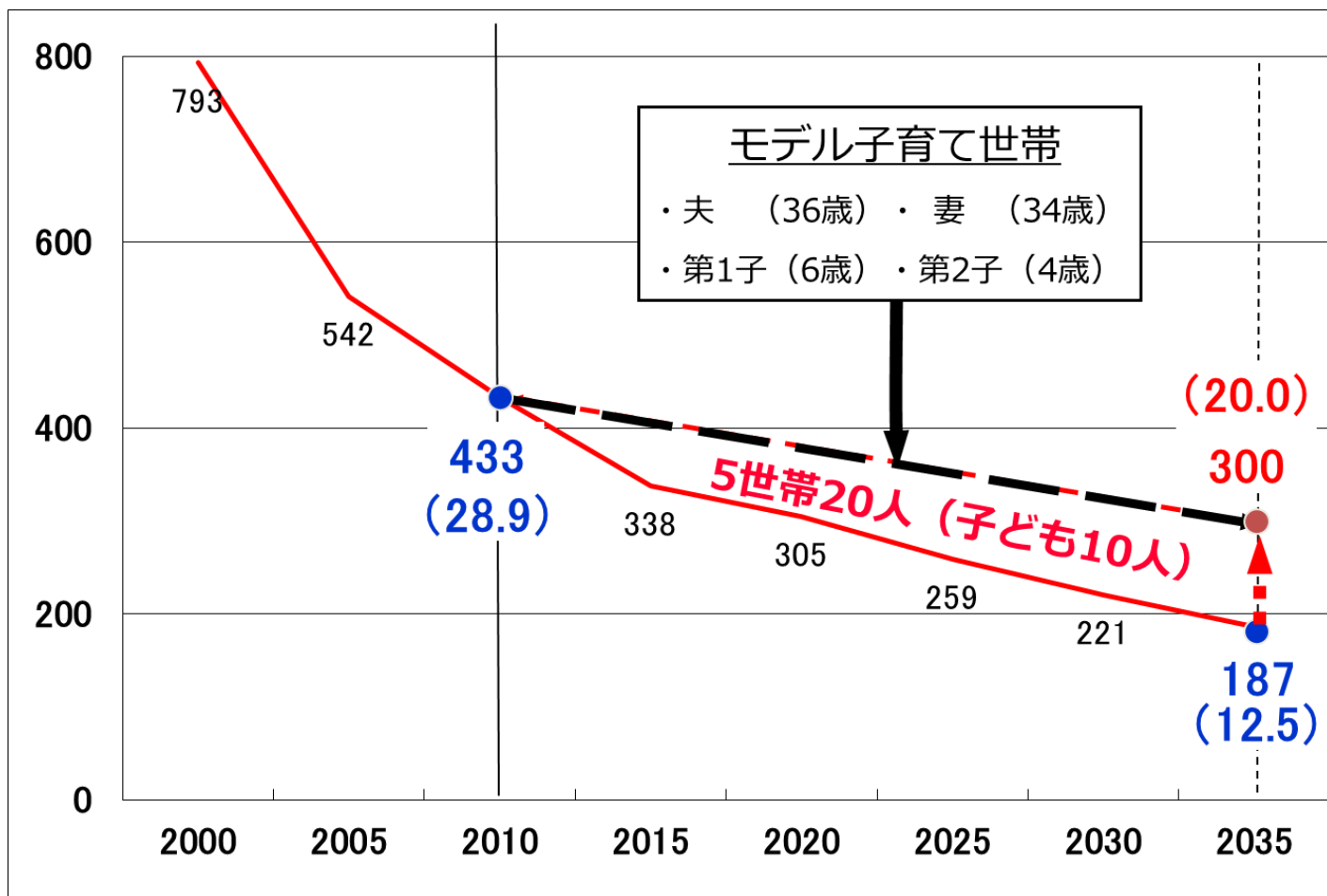
創造的過疎の基本的な考え方

過疎地における人口減少は不可避。そこで、数ではなく内容を重視しようという考え方。例えば、若者や子連れ世帯の受け入れによって、人口構造を筋肉質に変えたり、多様な職種の展開(中山間地=農林業という固定的な見方を止める)によって、持続可能な地域をつくるもの。下記の人口推移では、2011年度一時的に社会増となり、12年度からは再び社会減に転じているが、この間、圧倒的に若い世代が転入しており、町の活力は増進していると捉えられる。



創造的過疎による神山町の年少人口モデル

2005年国勢調査に基づく国立社会保障・人口問題研究所の試算による神山町の年少人口は、1学年あたりの換算で2010年28.9人、2035年12.5人になると推計されている。そこで、**2035年に1学年20人を確保**するためには、モデル子育て世帯を年間何世帯の移住を実現させれば可能かを試算。(2008年8月作成)



サテライトオフィスという働き方

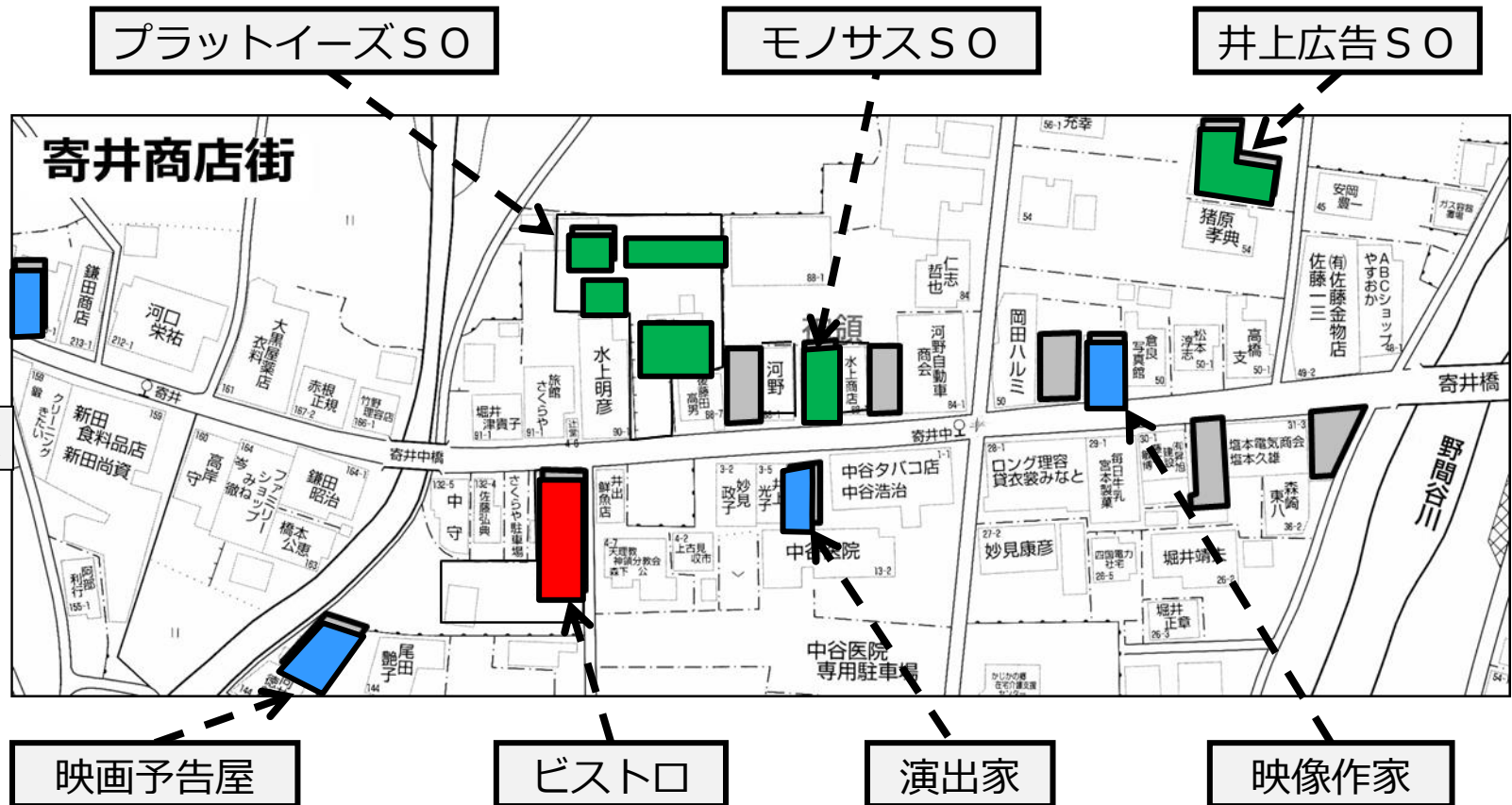


サテライトオフィスは本社社員が期間限定で滞在するもので、雇用や移住は伴わないと考えられていたが、過去4年間に**雇用(30名)**や**移住者(18名)**を生み、関連**新会社2社**が設立された。数年後にはさらに**30近い新規雇用**が創出される見込み。展開される職種も多様化し、**営業(オンライン)**も実施されている。



ワークインレジデンスによる商店街再生

「過疎地域には雇用がない仕事がない」という課題を、**仕事を持った人の移住**によって解決を図る仕組み。将来町にとって必要と考えられる**働き手**や**起業家**を**逆指名公募**します。この寄井商店街では、サテライトオフィス誘致や、クリエイター、職人などスキルやアイデアを持った人材の集積を進め、ここにしかないユニークな商店街の形成を目指している。



サテライトオフィス&ワークインレジデンスの波及効果



2010年10月に始まったサテライトオフィス誘致の進展によって、若年就業者や県内外からの入り込み客が増加。その結果、レストランや宿泊施設が新規に開業するなどサービス産業を成立させ、そこで使用される食材(有機農産物)の生産を喚起。つまり、**小規模な企業・起業誘致がサービス産業を育み、さらに中山間地の本丸である農業へと波及し始めています。**

神山塾（人材育成事業）

厚生労働省認定の「緊急人材育成支援事業(基金訓練)」および「求職者支援訓練」失業した人や卒業しても未就労な人を対象に、就職に役立つ知識や技能を無料で習得させる6カ月間の訓練制度。グリーンバレーでは「イベントプランナー・コーディネータ養成講座」として、2010年12月より実施。通称『神山塾』



訓練生の属性は、独身女性、20代後半～30代前半、東京周辺の出身、クリエイター系(デザインや編集の経験を持っていたり、カメラワークを得意とするなど…)が多数を占める。2014年8月までに、6期77名が課程を修了。

① 移住者(約50%) ② サテライトオフィス就職(7名) ③ カップル(9組誕生)